

# 平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年 4月 12日

研究・研修課題名	病態栄養認定管理栄養士の資格更新、日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST実施施設」認定更新のための学会及びセミナー参加
研究・研修組織名（所属）	栄養治療室
研究・研修責任者名（所属）	久保田 明子
共同研究・研修者名（所属）	

## 目的及び方法、成果の内容

### ①目的（800字程度）

管理栄養士は栄養状態の評価、栄養補給、栄養教育などの専門的知識、技術を有することが求められている。

病態栄養認定管理栄養士は臨床においてよりよい栄養管理を行うため、有能な専門的知識および技術を有する管理栄養士の資質向上を図り国民の健康増進に貢献することを目的に日本病態栄養学会が設けた資格である。

この資格の更新セミナー・学会参加等を通じて最新の栄養管理について学び、医療チームへの参画や患者の栄養指導・栄養管理を的確に行い栄養治療のレベルを向上することを目的とする。また、病態栄養認定管理栄養士資格が施設認定条件となっている「栄養管理・NST 実施施設」の認定を維持、更新することを目的とする。

### ②方法（800字程度）

資格を更新するために必須である日本病態栄養学会が主催する平成28年度の教育セミナー、年次学術集会へ参加。

### ③成果（データ等の図表を入れて2000字程度）

H28年7月24日に東京で行われた病態栄養学会認定管理栄養士・更新者用プログラムでは2症例についてグループで討議した。

1症例目は胃癌患者についてであった。栄養アセスメント、栄養プラン、栄養指導の方針などを検討した。様々な栄養アセスメントツールについては、対象の患者に適したものを選ぶことや、その特徴を理解し、精度を高めていくことが必要だと実感した。また今後のプランや栄養指導をするために患者の社会的背景を理解すること。検査値や身体状況について理解したうえで、根拠をもとにアセスメントし、プランをつくることの難しさや必要性について改めて実感することができた。

2症例目の嚥下障害患者については、症例の説明とともにリハビリの専門医から嚥下のメカニズムや実際のスクリーニングについて講義を聴くことができた。高齢化が進むなか、食事形態の調整が必要な患者は増えてきており、当院でも嚥下食の需要は増えている。また、高齢患者については退院、転院の際に地域間の連携も必要であり、全国規模で調整されている現在の食形態の分類を理解し、情

報をきちんと共有することが必要であると感じた。

1月14日、15日に第20回日本病態栄養学会年次学術集会へ参加した。1日目には教育講演を聴講し、「病期に応じた脳卒中の栄養管理」「慢性心不全患者の予後・QOL改善を見据えた栄養管理」「COPDの病態に基づく栄養管理」について学んだ。各分野の専門医から最新のガイドラインについて、また実際の臨床現場での栄養管理について学ぶことができた。2日目にはシンポジウム「種々の疾患における筋肉の代謝変化と栄養療法」教育講演「集中治療医学会日本版重症患者の栄養療法ガイドラインについて」を聴講した。

セミナーに参加することで、病態栄養認定管理栄養士の資格更新のための必須単位である5単位。年次学術集会に参加することで、5単位の計10単位を取得することができた。今後も学会やセミナーや学会等に参加し、ガイドラインや研究等、最新の情報を知ること、専門性の高い栄養学的知識・技術を学び、質の高い栄養サポートを患者および家族等に対し提供していきたい。